

# 脱炭素社会の実現に向けて

～みんなで一緒に取り組みましょう～

気候変動問題は、私たち一人ひとり、そして、この星に生きる全ての生き物にとって、避けることができない、喫緊の課題です。

既に世界的にも平均気温の上昇、雪氷の融解、海面水位の上昇が観測されており、我が国においても、平均気温の上昇、大雨、台風等による被害、農作物や生態系への影響等が観測されています。

地球温暖化の進行に伴い、今後、豪雨や猛暑のリスクが更に高まることが予測されています。また、気候変動は全ての大陸と海洋にわたって、自然及び人間社会に影響を与えており、温室効果ガスの継続的な排出により、人々や生態系にとって深刻で広範囲にわたる不可逆的な影響が生じる可能性が高まると言われています。

このため、気候変動という地球規模の課題の解決に向けて、日本は、「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」（2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすること）を目指しており、各都道府県においても、脱炭素社会の実現に向けた取組が進められています。

脱炭素社会の実現のためには、二酸化炭素を始めとする温室効果ガスを排出しない、又は排出量を抑えた行動や商品、サービスを選ぶなど、生活様式を見直すことが必要です。

私たちの行動によって、家庭や地域での温室効果ガスの排出を削減できるのはもちろんのこと、その行動が、企業における温室効果ガスの排出がより少ない商品やサービスの開発を促すことにもつながります。さらに、地域の脱炭素化により、新たな産業や雇用の創出など地域の活性化につながることを期待されます。

私たちが安心して暮らしていくことができる、また、将来世代の子どもたちへ、より良い環境を引き継いでいけるよう、脱炭素社会の実現に向けて、みんなで一緒に取り組みましょう。

## （１）家庭でできる取組

家電や自家用車などの使い方や買換えの際の選び方、住まいのあり方を見直すことにより、温室効果ガスの排出削減を効果的に進められますので、省エネと再生可能エネルギー利用の両面から脱炭素化に取り組みましょう。

### 【取組例】

- ・電気は小まめに消す、エアコンを使う時にはカーテンを閉める。
- ・ガソリン車やディーゼル車は多くの温室効果ガスを排出するので、急発進や急加速をしないなどのエコドライブに努めるとともに、距離に応じて、歩いたり、自転車を使用したり、公共交通機関を利用する。
- ・家電や車の買換え時にはLED照明などの省エネ家電や電気自動車などの次世代自動車を選ぶ。
- ・住宅をリフォーム又は新築する際は、高断熱化するとともに、太陽光発電等の再生可能エネルギーを導入する。 など

## （２）商品やサービスなどの選択による企業への働きかけ

家庭で購入している商品は、製造・流通段階でも温室効果ガスを排出していますので、環境に配慮した製品やサービスを積極的に選択しましょう。

### 【取組例】

- ・環境配慮マークの付いた商品や、二酸化炭素排出量が見える化した商品、地産地消の飲食サービスを選択する。
- ・事業活動で消費する電力を再生可能エネルギーで調達している企業を商品購入等で応援する。 など

令和4年7月28日

全国知事会